

保護という名の無責任な行動

12月8日、日曜日の朝、警察官が突然「ここでボランティアをしていた〇〇さんを知ってますか？」と訪ねてきました。

確かに、数ヶ月に一度アーク内で余ったフードをもらいに来ていましたが、久しく姿を見えていない彼女がその日の早朝、路上に車を停車し仮眠しているところを後ろから来た車に衝突され、意識不明の重体に陥っているというのです。(記事には団体にフードをもらいに行った帰りとなりましたが、そのような事実はありません) どうやら警官は近所の人に昔アークにボランティアに行ってたと言うことを聞き、駆けつけたようでした。家族に連絡は付かないし、家に立ち入りたくとも犬たちが吠えたてとても入れる状態ではない、と警官は困っており、その時点では私たちは彼女の家にとりあえずの犬・猫たちが居るのか想像ができないでいましたが、とにかく多頭飼いをしていることだけは判っていたのでそのまま見捨てることもできず、なるべく多くのフードを持参し警官立ち会いの元彼女の家へと向かいしました。

ガードレールで覆われ入り口のないその「家(と呼べるような物ではない)」は異様な雰囲気を感じ出しており、バリケードを壊し進入したその先では建物に閉じこめられた犬たちがけたたましく鳴き喚いていました。湿地帯という土地柄、コンディションの悪い足元で、生ゴミを燃やした炭と泥と水と犬たちの糞尿が一緒くたになって異臭を放っており、今巷で取り沙汰されている「ゴミ屋敷」にピッタリなほど、がらくたや生ゴミをため込んだその場所は、さながら「地獄」と呼ぶにふさわしい場所でした。そして、彼女はそのゴミと一緒に犬・猫たちもため込んでいたのです。

とりあえず、警官達に渡すような書類はないか彼女の住居部分を捜索しました。その寝床すら人間が住む場所とはとても思えません。数通の郵便物を見つけ、警官に渡し、「さあ」と意を決して犬たちが騒ぎ立てるプレハブ小屋へと入りました。そこで見たものは、日を遮られ薄暗い中で怯え見つめる無数の目。あるものはパニックを起こし壁に何度も激突し、あるものは興奮状態で弱いものを攻撃し、弱いものは隅にかたまり悲痛な声を上げながら震え、そんな犬たちは皆一様にやせ細り極限のストレス状態に晒されていたのです。

「可哀想な子を手助けしたい」・・・この思いからこの土地に移ってきたのであろう飼い主。あの子たちの姿を見て私たちは怒りに打ち震えました。保護という名の下にどうしてこのような酷い仕打ちができるのか。怒りを押し殺し、相当な飢餓状態だったのか糞の一つも落ちていない(食べたと思われる)犬舎を掃除し綺麗な水と沢山のフードを彼らに与えました。一つ一つの犬舎を掃除しながら頭数を数えたら、その数90匹余り。その中には生まれて1,2ヶ月の子犬も含まれてます。さすがにあの状況の中、子犬を放すと格好の餌食になるのは飼い主も把握してたようで犬舎の中にケージを置き、その中に子犬を隔離したり自分の寝床に入れたりしていたので何とか無事に5匹レスキューできました。

そんな中、小屋の床下に隠れていたであろう数匹がプレハブの裏で一匹の負け犬を襲っていました。尋常ではない叫び声を

聞きつけ、駆けつけると瀕死の状態の犬を数匹の犬が容赦なく襲い咬み付いています。すぐに引き離し、レスキューしましたが咬み傷が酷く、その犬は自力で立つことができず衰弱が激しかったため治療のため運び込んだ動物病院にて安楽死となりました。

今回の大量の犬たちを安楽死せざるを得なかったのには理由があります。まず、飼い主の家族に動物達を育てる気がなく愛着のあった犬数匹以外は処分してもいいと了承したこと。日も当たらず最悪のコンディションの中、ほとんどの犬たちがアカラスを発症していたこと。そして、その犬たちは十数匹を除いて人間を信用しておらず極限のパニック状態にあったこと。最悪なのが、不妊手術の費用を段々捻出することが不可能になった飼い主がオス・メス分けることもなく近親交配を繰り返して来たであろうと安易に推測できるほどの同じ顔立ち、姿の犬が多数おり、中には明らかに奇形の犬も見られました。

新聞記事が掲載されてから抗議の電話や手紙も頂きましたが、その中の「どうして他の団体と手を組み一匹でも多く助けなかった」という声があります。しかし、どこの団体も数多くの動物達を抱え手一杯なのを解りながらいつまでかかるか判らない治療や里親探しにSOSは出せません。全国が多頭飼育崩壊現場を見ても、動物達そっちのけでボランティア同士が衝突したり、いがみ合ったりしています。避けては通れないお金の問題が生じます。そういった無用なことを避けるため、今回はアーク内だけで複数の獣医師の協力を得て決断しました。もちろん、飼い主の娘も動物病院に立ち会わせています。このように当初、公表を避けた背景には飼い主家族とあの土地の貸し主の問題等、プライベートな問題が複雑に絡み合っており、混乱を避ける為の措置だったということをご理解ください。

アークがこのような措置を取ったという事実をあからさまに批判する方々もいらっしゃるでしょう。早すぎる決断、と言われても仕方ありません。遅かれ早かれ結果は同じだったと思います。しかしながら、結果だけを報道した新聞記事だけでは判断して頂きたいではなく、ここに至るまでのプロセスを理解していただきたいと思い、HP上で経緯をお話することにしたのです。今回のような措置を行ったことに対し、私たちは後悔していません。

未だ意識の戻らない飼い主は、もうすでに脳死状態だと家族から伺っています。もし彼女と話ができるのなら、ぜひお聞きしたいです。「あなたに保護されてあの子たちは本当に幸せだったと思っているのか？」と。

アークが把握している犬・猫の数

・犬93匹

・猫8匹

内、犬69匹・猫2匹を動物病院にて安楽死。

残り犬24匹、猫6匹アーク内及び動物病院にてリハビリを経て里親募集予定。